

## ワンランク上の病院をめざして

私たちは、患者さんの意思を尊重し、高度で良質な医療を提供することによって、地域社会に貢献します。

[nishihosp.nishinomiya.hyogo.jp](http://nishihosp.nishinomiya.hyogo.jp)

## Message メッセージ

### 腎臓内科の現況

■概要、Q&A、スタッフ紹介 etc.

## Information お知らせ

### ■にしびようTopics

“h-Anshinむこねっと” 患者情報共有システムによるICT連携の推進

### ■特集

ドナー検診をすすめる

### ■院長エッセイ「四季雑感」

酸素センサー

### ■医療技術NOW!

関節超音波(関節エコー)検査

### ■絵の中の風景を旅するvol.18

にしびよう美術館館蔵品を毎回紹介



# 腎臓内科の現況

腎臓内科医長：藤井直彦



**兵** 兵庫県立西宮病院に腎臓内科が新設されたのは2006年4月。今から11年近く前のことです。その頃は当院の透析室も4床しか無く、慢性糸球体腎炎に対する腎生検もされていないような状況でした。そこへ腎臓内科医2名が赴任し、少しずつ活動範囲を拡げ、仲間を増やし、今では検尿異常から保存期～透析期腎不全、移植後のフォローまで、何でも対応できるようになりました。こうして成長し続けて来られたのも一重に地域の皆様方の温かいご支援があったのことであります。

**こ** れまで腎臓内科では、様々な形で地域の皆様にお役に立てるよう、提供可能な医療の「地盤」を築いてまいりました。院内の腎臓病診療レベルの確保だけでなく、後進の若手医師の教育、地域の患者さんへの啓発、かかりつけの先生方との連携など、様々な活動

を通して盤石な土台を形作ろうと努めてきました。まだまだ満足の行くものではないですが、10年という節目を迎え、そろそろ次のステップを目指す頃に差し掛かっていると考えています。

**こ** れからの腎臓内科では、さらなる飛躍と成長を目指して、今まで以上に個々人のスキルを磨き、組織の多様性を育てていきたいと考えています。「循環」の林、「移植」の米本、「教育」の佐伯、「漢方」の奥野といった感じで<sup>注)</sup>、しっかりした「地盤」の上に個性あふれる「花」を咲かせることができると願っています。わたくし藤井は華道家さながら、それぞれの「花」が一体感をもって映えるようアレンジさせていただきます。これからもどうぞご指導ご鞭撻を宜しく願います。注)これはあくまで一例です。



# 四季雑感



**日** 増しに陽射しが明るくなり、新緑の季節ともなると、誰しもが生命の息吹を感じてしまいます。なぜそう感じるのでしょうか。

どなたもご存じのように、植物の葉が緑色に見えるのは、葉に含まれる葉緑体の色素によるものであり、ここで太陽光エネルギーを利用して光合成が行なわれ、最終的に私たちの栄養源になります。それと同時に二酸化炭素を取り込んで、私たちの生命に不可欠な酸素を放出してくれるわけです。それを私たちは直感的に感じ取っているのかもしれませんが。

最近、慢性腎臓病（CKDとも呼ばれています）が増えており、メタボリックシンドロームとの関連も注目されています。腎臓は体内に溜まった老廃物を尿として排泄する臓器ですが、一方では酸素不足にとっても敏感だという特徴があります。

なぜかという、腎臓は血流の量が多い臓器で、動脈と静脈が並行して走っているところが多く、その間で酸素の交換が起こってしまい、そのため末梢の腎組織における酸素分圧は低い状態にあるからです。

一方、ヒトの大きな脳は極めて酸素不足に弱いようにできていますから、酸素不足に対するセンサーがどうしても必要です。そこで腎臓がそのセンサーの役割を果たしてくれています。例えば、高地などで酸素不足になると、腎臓がエリスロポエチンというホルモンを分泌して赤血球を増やし、酸素不足に適応できるようになっています。気がとおくなるような年月をかけて、精巧な人体のメカニズムがうまい具合につくられてきたのです。

ところが、腎臓はその特徴のために、ともすれば酸欠になりやすいのです。このことがいろいろな原因で慢性の腎臓病が起こるもとになっています。

近年、生活習慣病とともに慢性腎臓病が増えてきているのは、私たちの生活環境が変化したために、腎臓に新たな負担がかかってきたということかもしれません。腎臓を守るために、過度のストレスを避け、生活習慣病の予防に努めたいものです。



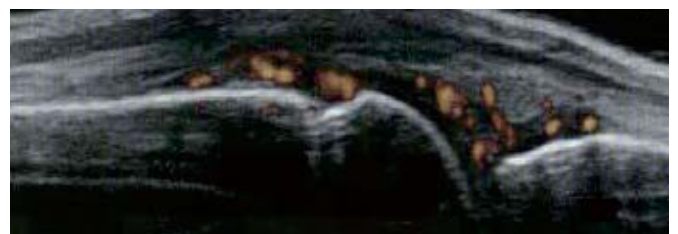
兵庫県立西宮病院 院長  
河田 純男

## 医療技術 NOW!

西宮病院の「今」がわかる。

### 【関節超音波（関節エコー）検査】

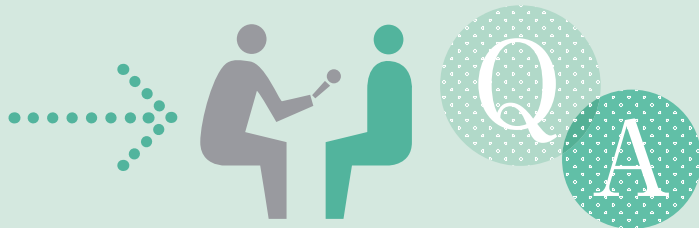
関節リウマチはこの10～20年で優れた薬剤が種々開発され、治療法は非常に進歩しました。また治療法の進歩と同時に、早期診断と診断精度の向上も求められています。レントゲンは関節リウマチの画像診断のゴールドスタンダードですが、ある程度、関節に変化が出現しない限り、異常としてとらえられないため、早期診断には不十分です。そのため昨今では関節の変化をより早期に検出し、適切な時期に治療を開始できるようMRIや関節エコーを行うことが推奨されています。特に関節エコーは医師の診察では捉えることのできないような微小な関節炎もリアルタイムに観察が可能で（患者さんといっしょに画面を見ながら検査ができます）、早期診断において非常に有用なツールになります。10年以上前から欧米では関節エコーは一般的な検査で『リウマチ医の聴診器』といわれております。本邦でも多くの施設で頻用されつつあり、当院でも積極的に行っております。



【関節リウマチの手指関節のエコー所見】  
関節リウマチの関節炎では血流の増加が観察される（紅い部分）

（リウマチ科医長 関口 昌弘）

# 腎臓内科について質問! INTERVIEW



**Q** 慢性腎不全といわれました、  
運動は控えて安静にしていたほうが良いですか？

**A** 以前は腎臓病になったら安静が必要といわれましたが、現在は、糖尿病、高血圧の発症を抑えたり、体重維持するために運動を行うことは重要といわれています。自分の体力、体調に合わせて適度な運動を定期的に行いましょう。

**Q** 腎臓病になるとなぜ減塩が必要ですか？

**A** 腎機能が低下すると、塩分が十分排泄されず体内にたまります。余分な塩分は高血圧の原因であり、それがまた腎臓に負担をかけることとなるからです。

(看護師長:糸田 昭美)

## 最新情報

### 透析看護認定看護師

血液浄化室の福田清人看護師が2016年3月に透析看護認定看護師を取得されました。患者さんに安心・安全に透析治療を受けられるようサポートするのが透析看護であり、透析看護認定看護師はその専門家ということになります。

透析治療のサポートのみならず、通院中の患者さんに対し透析療法が必要とならない様に予防する試みを行っております。まず末期腎不全の一番の原因である糖尿病患者さんに対し食事療法などを行い、末期腎不全へ進行しないよう指導を行います。また慢性腎臓病の患者さんに対しては年7回腎臓病教室を行い医師、薬剤師、管理栄養士、ソーシャルワーカーとともに腎臓病についてお話させていただいています。今後も様々な活動を行っていきたく考えておりますのでよろしく願い申し上げます。

(腎臓内科医長:林 大祐)

## スタッフ紹介



- 林 大祐 腎臓内科医長(右1番目)
- 佐伯みずほ 腎臓内科医長(右5番目)
- 奥野 綾子 腎臓内科医長(右6番目)
- 米本佐代子 腎臓内科医長(右2番目)
- 藤井 直彦 腎臓内科医長(右上)
- 福田 俊悟 専攻医(右3番目)
- 庄田 光彦 臨床研修医(右4番目)

## “h-Anshinむこねっと”患者情報共有システムによるICT連携の推進

平成29年1月より、情報公開医療機関・情報参照医療機関へ患者さんを紹介させていただく際に、“むこねっと”の説明と同意を取得しています。当院で行った、CT・MRI等の画像データ、血液検査データ、処方、注射などの診療内容を共有することができます。現在、西宮市、尼崎市、芦屋市他在住で当院を受診されている265名の患者さん(H.29.3現在)情報が参照できるようになっております。新規ご紹介に際しての、画像のDVDへの焼き付けが不要になります。この取り組みから、病院・病診連携をスムーズにし、紹介・逆紹介を活発化していきたいと思っております。また、“むこねっと”を利用した診療・検査予約を行う事ができます。診療予約状況の確認なども可能なので、ペーパーレスで効率的な診療予約ができ、患者さんの待機時間の縮小にもつながります。今後も、ICT連携を推進し安全で効率的な地域連携を行っていきたく考えております。

“むこねっと”への参加もよろしくお願いたします。

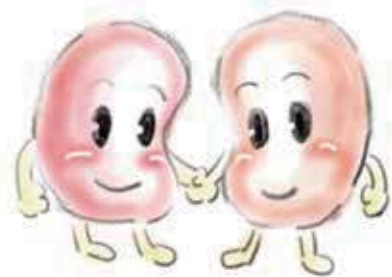


(地域連携センター長:小林 研二)

## ドナー検診をすすめる

西宮病院では1973年に第1例目の生体腎移植を行って以降、600件以上の腎移植を行いその内450名以上の方が生体腎移植を受けられています。すなわち同じ数のドナーがおられることとなりますが、近年全国的にドナーの方々の健康管理が話題となっています。一つだけになった腎臓がきちんと機能しているか、高血圧や糖尿病、脂質異常症など腎臓に影響を与える合併症が管理できているかなど、腎提供後の健康管理は必須です。特にドナーになられ長期間経過されている方も増えていることから、現在当院ではドナーフォロー体制について様々な視野から試行錯誤を行ってまいりました。ドナーの方で定期健診や健康問題について不安をかかえておられる方がおられましたら、当院泌尿器科ないしは腎臓内科外来へぜひご相談下さい。

(腎臓内科医長:米本 佐代子)





# 絵の中の風景を / 旅する vol.18

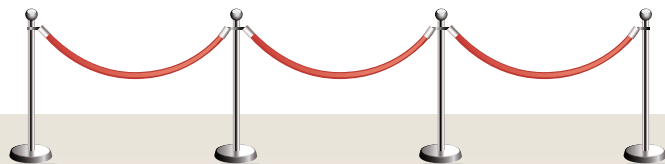
<http://www.nishihosp.nishinomiya.hyogo.jp/>

当院外来ロビーや各病棟には、地域の方々や入院患者さん、そのご家族などからのご寄付による200以上にのぼる絵画が飾られています。“にしびょう美術館”の貴重な“館贈品”は、当院ホームページ内の「にしびょうWebミュージアム」でも常設展示していますが、これらの作品の中から、毎回、ちょっと気になる1作品をとり上げてご紹介いたします。と一緒に、絵の中の風景を旅してみませんか。



展示場所

本館9階  
ナースステーション前



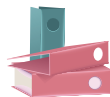
ギリシャの首都アテネにある古代の都市国家アテナイのアクロポリスです。アクロポリスとは古代ギリシャの都市国家のシンボルとなる小高い丘のことで、防壁で覆われた丘の上に神殿や砦などが築かれていました。この作品も有名なパルテノン神殿を中心にアクロポリスの丘全体が雄大に描かれており、古代へのロマンをかき立てられる一枚です。

アクロポリスにはパルテノン神殿のほかにも複数の神殿や野外劇場などの遺構が残っており、こうした遺構は今から2千5百年も前に造られたもので、当時は彫刻による装飾や彩色が施され、とても美しかったと言われています。皆さんも悠久の時彼方に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。

(総務部:伏見 達)

## 編集後記

編集室



日本では、旧暦5月を皐月(さつき)と呼び、新暦5月の別名としても用います。「さつき」は、この月は田植えをする月であることから「早苗月(さなへつき)」と言っていたのが短くなった様です。美味しいお米が出来るまでには、種の選定・苗の育成・土づくり・田植え・・・と1年間手塩に育てる行程があります。新戦力を加えた「チーム西宮」を温かく見守っていただき、今後の成長もご期待ください。

(看護部次長:木村 弘子)

H A M A K A Z E

2017 18  
Vol. 18

## 兵庫県立西宮病院

〒662-0918 兵庫県西宮市六湛寺町13番9号  
TEL:0798-34-5151(代表) FAX:0798-23-4594

地域医療連携センター FAX:0798-34-4436  
E-mail:chiiki-kn@hp.pref.hyogo.jp

[nishihosp.nishinomiya.hyogo.jp](http://nishihosp.nishinomiya.hyogo.jp)

2017.5 発行